



JFA グリーンプロジェクト ポット苗方式による芝生化モデル事業

JFA グリーンプロジェクト
ポット苗方式による芝生化モデル事業
2024 年度 ポット苗無償提供

募集要項

二次募集

公益財団法人日本サッカー協会



ポット苗方式による芝生化モデル事業
2024年度 ポット苗無償提供 募集要項

- 概要 この事業は、スポーツ施設、空き地、校庭や園庭などの広場を、天然芝生化を検討する団体に対し、芝生の苗(ポット苗)を無償提供し、芝生のグラウンドが全国に増えていくことを推進していくものです。
- 対象 以下の2つの条件にあてはまる施設のみが対象となります。
 - スポーツ施設、空き地、校庭・園庭などの広場
 - 芝生化する面積200㎡以上(但し、幼稚園・保育園の園庭の場合は200㎡以上で可)
 - 幼稚園・保育園の園庭の場合は園児(特に3歳以上)1人に対して10㎡以上が必要
 - 小学校校庭の場合は児童1人に対して15㎡以上が必要
 - 中学・高校などの校庭については部活動などでの使用頻度から維持管理が困難な場合がありますので、事前にご相談ください。
- 申請者 下記(1)～(6)にあてはまる団体の長から申請ください。
 - 都道府県サッカー協会、地域サッカー協会 (2) 法人格を有するサッカークラブ／スポーツクラブ
 - 地方自治体 (4) 幼稚園・保育園
 - 学校(公立・私立を問わない) (6) その他、社会福祉法人など
- 応募期間 2024年1月30日(火)～2024年2月13日(火)
- 応募方法 下記、いずれかの方法でご申請ください。

【申請フォームから申請】

Google アカウントをお持ちの方: <https://forms.gle/pYktw3PTRGg4baSn9>

Google アカウントをお持ちでない方: <https://forms.gle/ZyNgpPLDtEWHHHXn8>

【メールによる申請】

別紙「申請書」に必要事項を記入の上、提出書類とあわせて下記まで送付ください。

送付先: JFA グリーンプロジェクト jfa_greenproject@jfa.or.jp

※郵送やFAXなど上記以外による申請は、現在取り扱っておりません。

- 応募条件 以下の条件を満たしていることを予めご確認ください。審査の際に確認する内容となります。

ポット苗の植え付けに関する条件

 - 2024年5月下旬から7月上旬の期間でポット苗の植え付けを実施できること。
※ポット苗の植え付けにあたっては、JFAがインストラクターを派遣し指導をします。
 - 苗植え付けに伴う人員の手配(人件費が伴えば経費負担含め)ができること。
 - ポット苗の送料を申請者側が負担できること。
※ポット苗の送料は、提供する量や出荷元の所在地によって異なりますが、2万円～15万円程度

芝生の維持管理に関する条件

 - 芝の管理(芝刈り、散水、施肥)を実行できる体制を整え、継続的に芝生を維持管理すること。
※芝管理の目安(芝刈り:週1～2回、散水:毎日、施肥:月1～2回)。苗植えの環境によって異なります。詳細P5参照。
 - 申請者側が散水用設備、芝刈り機を用意できること。
特に500㎡を超える面積を芝生化する際、散水用設備としてスプリンクラーは非常に重要な設備であるため、本要項の「管理のポイント」を参照の上、必要な設備を整えること。

その他の条件

 - 申請者が芝生化する敷地の所有者と異なる場合は、申請に際し所有者の許可を得ていること。
 - 本協会との調整を円滑に進めていくために、審査選定に伴うヒアリング(敷地情報や管理体制など)や苗植え付けに伴う調整など、十分に対応ができる方を本協会との連絡窓口とすること。
 - 生育・管理についてのレポート提出および現況調査アンケートに対応できること。
(生育レポート:9月と翌年春頃/現況調査アンケート:2～3年に一度)
 - JFAおよび協賛社が行う現場視察やインタビュー等にご協力いただけること。(随時)
- 審査選定 応募書類、電話等によるヒアリング審査を実施し、ポット苗の無償提供の団体を選定します。
選定結果は、2024年2月末～3月頭までに申請者へ通知いたします。募集枠の状況で2次募集を行う場合があります。

JFA
Green
Project

● 事業概要 ●

2023年12月 募集開始

「ポット苗方式」による芝生化とは、ポットの中で45日間ほど育てた芝生（ティフトン芝）を田植えのように50cm間隔に植えるもので、2ヶ月ほどでその間隔が埋まり、一面の緑の芝生になります。ティフトンの生育が早い特性を生かして、日常の芝刈り、散水、施肥を充分に行えば、大掛かりな工事をすることなくグラウンドを芝生化できます。

2024年 応募締切

1月22日

1月30日 二次募集（～2月13日まで）

審査開始

2月～3月 提供先決定（通知）

4月

4月～5月初旬に苗づくり（JFA）



約45日で苗の完成
各地に出荷



5月 苗づくり開始

苗の育成（約45日）

6月 苗の発送開始

★植付け

各地で苗植え
JFAがインストラクターを派遣



田植えのように
50cm間隔で植える



7月

★養生（散水・施肥）
（植付け後45日程度）

※立入禁止の必要はありませんが芝生に
負荷がかかるイベントはできません

8月

★芝刈り開始（散水・施肥・芝刈り）
（植付け後30日後）

植付け後約2～3ヶ月で
一面みどりの芝に！



9月

★生育レポート提出

10月

★オーバーシード

11月

★選定後、申請者側で対応するイベント

本事業は、NPO 法人グリーンスポーツ鳥取(<http://www.greensportstottori.org/>)の技術協力のもと実施しています。

● ポット苗方式による芝生化の特徴 ●

スタジアムのような綺麗な芝生とは違いポット苗方式は費用をかけずに最低限の芝生を創る手法で、芝生の苗を植えてから 2 ヶ月後には一面みどりの芝生になります。苗植えには人手がかかりますが、スタジアムの芝生を整備するのに比べ、1 m²あたり 100 円～1,000 円程度と各段に安く芝生化する手法です。維持管理も必要最低限とし、雑草は取り除かず、週に 1 回の芝刈り(刈放し/刈った草を集めない)と年に数回の施肥と秋に冬芝の種をオーバーシードするだけです(勿論、除草剤や農薬は使いません)。けれども、クレーのグラウンドと比べるとその管理には手間は必要で、特に夏には毎日の散水が必須です。なお、ポット苗方式では、ティフトン 419(パニューダグラスの一種)という暖地型の芝生を用いて芝生化する手法です。2009 年度、青森県の弘前市で実験し、十分に生育しましたが、東北地方や北海道などで冬の最低気温がマイナス 15℃以下となる寒冷地では上手く生育しない可能性がありますので、申請書には対象地の正確な所在地を明記してください。

◆馬淵小学校(滋賀県近江八幡市)芝生化面積 7000 m²(2012 年度芝生化)



植付け 1 カ月後の模様
撮影日：2012 年 6 月 23 日



移植後約 3 カ月の芝生の模様
撮影日：2012 年 9 月 20 日

● 「ポット苗方式」によるポット苗の移植方法 ●

植付け当日の朝、必ずポット苗に灌水して土を湿らせて下さい。写真のように 50cm 間隔で深さ 6~7cm の穴をあけて下さい。子どもと一緒に作業をする際は、事前準備の段階で、穴をあける目安としてラインを入れておくと便利です。また、固いグラウンドに穴をあける作業はとて大変ですので、ある程度は事前準備の段階であけておくと効率的です。苗の植え付けは、写真のように掘った穴に一つの苗を移植します。苗箱から一株ずつ苗を取り出し、土をつけたまま穴に入れて、上から足で抑え、周辺の土を株もとによせてもう一度足で抑えつけます。植付け後、たっぷり灌水し、化成肥料(14-14-14%)20g/m²を目安に施肥をします(グラウンド全面に撒いて下さい)。なお、芝生化しようとする場所で、極端に水はけが悪い部分がある場合などは、できる範囲で、あらかじめグラウンド全体に1~1.5%の表面勾配をつけることをお勧めします。

資料提供: NPO 法人 グリーンスポーツ鳥取



①50cm間隔にラインを引き、苗箱(25株)を配置する



②移植鏝、小鍬(地面が硬ければ唐鍬)で深さ5cm程度の穴を掘る



③ポット苗を1株ずつ穴に置いて、足でしっかりと踏みつける



④踏みつけた後、周囲の土をポット苗の周りに戻す



⑤移植当日はたっぷりと散水する

(ポット苗は地面より少し低いほうがよい)

● 「ポット苗方式」によるポット苗移植後の管理 ●

(校庭・園庭、空き地の芝生化の参考資料です。)

管理のポイント

1. 散水
 - ①移植当日は水が浮き上がるほどにたっぷりと散水する。
 - ②移植後2カ月は毎日散水して下さい。
 - ③梅雨明けから9月中旬までの雨が少ない時期は散水を多くする。
 - ④10月下旬から4月までは原則として散水は不要。

※夏季の散水は基本的に毎日の作業となります。人力では限界がありますので、スプリンクラー等の設備(次頁参照)を用意して下さい。

2. 施肥
 - ①芝生の根先(ランナー)の発生を促進する目的で、移植後2ヵ月間は月に2回の施肥を行う。
 - ※一回の施肥に必要な肥料の量は、窒素・リン酸・カリウムがそれぞれ14-14-14%の化成肥料を、1,000㎡あたり20kgを目安とします。(ティフトンの初期生育には多めの肥料を必要とします。)
 - ②移植後3か月目からは、月1回の施肥を行う。
 - ③成長が停止する冬季(12月～3月)は原則として施肥しない。

3. 芝刈
 - ①移植後1か月間は芝刈りをしない。
 - ②移植後1か月から2か月までは、高さ5cm、10日～14日間隔で芝刈りをする。
 - ③移植後3か月目以降は、高さ4cm、4日～7日間隔で芝刈りをする。刈った芝は集めて捨てる必要なし。
 - ④10月下旬から4月までは芝の成長に合わせて芝刈り回数を減らす。
 - ※芝刈り作業は週に1度は行います。下記を参考に適当な芝刈り機をご用意ください。

芝生化面積	芝刈り機の仕様	金額の目安
1,500㎡以下	50cm 自走式 (2.5～8cmの刈高で刈れるもの)	15万円
4,000㎡以下	100cm 乗用型(")	60万円
8,000㎡以下	120cm 乗用型(")	100万円
8,000㎡以上	120cm 乗用型(")	200万円

冬芝のオーバーシーディング

冬芝のオーバーシーディングとは、冬の時期に休眠する夏芝(今回の場合はティフトン)の上から、冬芝(ライグラスを推奨)の種を撒くことにより、冬の時期でも、一面が緑の芝生を形成させる手法です。こうすることで、一年中緑の芝生を実現できるとともに、冬の時期に休眠する夏芝の保護にもなります。夏芝は、11月頃～4月頃に休眠しますが越冬し、温かくなると活動を始め緑色になります。

◆ オーバーシーディング前後の芝生管理のポイント

1. 播種
 - ①播種の適期は9月中旬から10月中旬。芝生は寒地型の芝生(冬芝)の「ペレニアル・ライグラス」。
 - ②1,000㎡の芝生にオーバーシーディングするのに必要な種の量は40kgを目安として下さい。
 - ③ただし、播種後5日～20日の間は傷つきやすいので、この頃に運動会などのイベントがある場合は、播種をイベント後に遅らせるか、もしくはイベントを早期に繰り上げる。

2. 散水

種子の発芽には水分が必要となるので、晴天日は散水する。
(特に、9月中旬以前に早撒きする場合は発芽するまで毎日散水する)

3. 芝刈
 - ①播種直前には必ず芝刈り(通常よりやや低刈:高さ2cm～3cm)を行う。
 - ②播種後3週間までは傷つきやすいので、芝刈りは行わない。
 - ③播種後3週間目から芝刈り開始(1回目は高さ5cm)、その後7日～10日間隔で芝刈り(3cm～4cm)。
 - ④通常時の芝刈りの高さは原則4cm程度とし、2cm以下の低刈は避けること。
 - ⑤10月下旬から4月までは芝の成長に合わせて芝刈り回数を減らす。

4. 肥料
 - ①12月までには月1回の施肥を行う。
 - ②成長が停止する冬季(12月～2月)は原則として施肥しない。

留意事項 芝生の管理は必ず本マニュアルに基づき行われるものとします。
ご不明な点があれば事前にインストラクターまでお尋ねください。

● 散水設備(スプリンクラー)の設置について ●

(NPO 法人グリーンスポーツ鳥取推奨)

ポット苗方式による芝生化には、苗の移植後の毎日の散水が欠かせません。そのため、毎日の散水を如何に効率的に行えるかが、芝生化の成功の鍵を握ります。下記で紹介するスプリンクラーは、芝生化部分に埋設するもので、芝生化するフィールド全面に自動的に均等に散水することができる設備です。設置には初期費用がかかりますが、苗の移植後の毎日の散水作業を自動で行えるので、散水作業に人手がかかりません。スプリンクラーがなかった場合の毎日の散水作業の人件費の積算額と比較すれば、長期的に見れば、以下のようなスプリンクラー設置の初期費用は高いものではありません。ポット苗方式による芝生化を検討される際は、可能な限り、このようなスプリンクラー設備を導入してください。また、設置にあたり、ご不明な点などがあれば、JFA までお気軽にお問合せください。



(トロカンパニージャパン WEB サイトより)

TORO The Toro Company JAPAN
トロカンパニージャパン

home news 会社概要 お問い合わせ LINK

ゴルフ スポーツ 校園緑化 一般緑化 DIY 農業(A&B) DM&DIRI 製品INDEX School

校庭緑化等でのご利用
Toro の製品は数多くの校庭・公園の緑化等で広く使用されています。

スプリンクラー
640シリーズスプリンクラー

家庭用のスプリンクラーとしては最も耐久性に優れたヘビードューティ仕様。640シリーズは競技場用スプリンクラーのトップモデルとして、もうすっかり定着しています。ゴムカバーを標準装備し、5種類のノズル、12種類のアーク、そしてチェックバルブを選択可能。バルブヘッドや再給水使用表示など様々なモデルがあります。スポーツフィールドにおける葉面湿度計測も可能です。大切なフィールドを、大切にケアしてください。

仕様詳細 PDFファイル

640シリーズスプリンクラー

業務用のスプリンクラーとしては最も耐久性に優れたヘビードューティ仕様。640シリーズは競技場用スプリンクラーのトップモデルとして、もうすっかり定着しています。ゴムカバーを標準装備し、5種類のノズル、12種類のアーク、そしてチェックバルブを選択可能。バルブヘッドや再給水使用表示など様々なモデルがあります。

Toro 640シリーズスプリンクラー
半径：14-20m

特長

- 5種類のノズルと12種類のアーク。
- バルブヘッド (NON圧作動モデル)。
- ゴムカバーを標準装備。
- 調整ネジより最大25%までの半径縮小が可能。
- 低位置ヘッドからの氷塊けを防止するチェック・オ・マチックモデルも用意。
- 調整部から最大13mm 下の設置が可能。
- いたずら防止ロックネジ付キャップ。
- 地表直への露出面積が小さいヘッド上部。
- ノズルとドライブアセンブリはステンレスケースで保護。
- ステンレス製スプリング。
- 特殊樹脂、真鍮、ステンレスによる頑丈な構造。
- 寿命の長いヘアードライブ方式。
- 詰まりにくいスケルトン型フィルター。
- 高度調整可能。一機能表示あり。
- 5年保証。

仕様

- 半径：14-20m
- 流量：29-95 L/min
- 最高葉面水圧：29-6.3kg/cm²
- 最大葉面水圧：7.1kg/cm²
- ポップアップ時のノズル高さ：60mm
- 給水口：25mmメネジ、NPTまたはBSP
- 寸法：φ7"
- 寸法：
 - 地表直下13mmに設置した時の露出面の直径：65mm
 - ボディ径：65mm
 - キャップ径：83mm
 - ボディ高さ：チェック・オ・マチック：230mm
 - バルブヘッド：267mm
 - チェック・オ・マチックは46mmまでの高さ差に対応

200T シリーズ / 640 シリーズ スプリング

● 各種施設の典型的な整備内容と経費 ●

(典型的な事例における主な経費の参考値です。利用目的、予算枠などそれぞれの事情に応じて適切にアレンジしてください。)

	競技場	練習グラウンド	河川敷	校庭	広場・公園	園庭
① 芝生面積	7,500㎡	7,500㎡	7,500㎡	5,000㎡	3,000㎡	1,000㎡
② 土壌	砂200mm以上	基盤土壌または マサ土客土	基盤土壌または マサ土客土	基盤土壌または マサ土客土	基盤土壌または マサ土客土	基盤土壌または マサ土客土
③ 整地工事 表面勾配	必須 0.3%以下	0.3~1%	0.3~1%	0.3~1%	0.3~1%	0.3~1%
④ 芝刈機 週1回作業時間	大型乗用 300~400万円 約3時間	大型乗用 300~400万円 約3時間	大型乗用 300~400万円 約3時間	中型乗用 150~250万円 約2時間	中型乗用 100~200万円 約1.5時間	自走式 15~20万円 約2時間
④ ロボット芝刈機 週7回作業時間	5,000㎡対応 65万円*2台 0.2時間	5,000㎡対応 65万円*2台 0.2時間	5,000㎡対応 65万円*2台 0.2時間	5,000㎡対応 65万円 0.2時間	3,000㎡対応 50万円 0.2時間	1,500㎡対応 27万円 0.2時間
⑤ 水源 水圧	水道 0.45MPa以上	水道 0.45MPa以上	池または河川 0.45MPa以上	水道 0.35MPa以上	水道 0.25MPa以上	水道 0.25MPa以上
⑥ 散水装置	ポップアップ 600万円	レインガン 400万円	エンジンポンプ+レインガン 0~100万円	ポップアップ 250万円	散水チューブ 60万円	ポップアップ 40万円
⑦ 冬シバ ライグラス	播種 600kg	播種が望ましい (積雪地帯;省略可) 300kg	省略可 (積雪地帯;省略可) 0~300kg	播種が望ましい (積雪地帯;省略可) 200kg	省略可 (積雪地帯;省略可) 0~120kg	播種が望ましい (積雪地帯;省略可) 40kg
⑧ 施肥 kg/年間(14%)	化成肥料+微量元素 3,000kg	化成肥料 2,000kg	化成肥料 1,600kg	化成肥料 1,000kg	化成肥料 600kg	化成肥料 200kg
⑨ 年間種子代	48万円	24万円	0~24万円	15万円	0~10万円	3万円
⑩ 年間肥料代	45万円	30万円	24万円	15万円	9万円	3万円